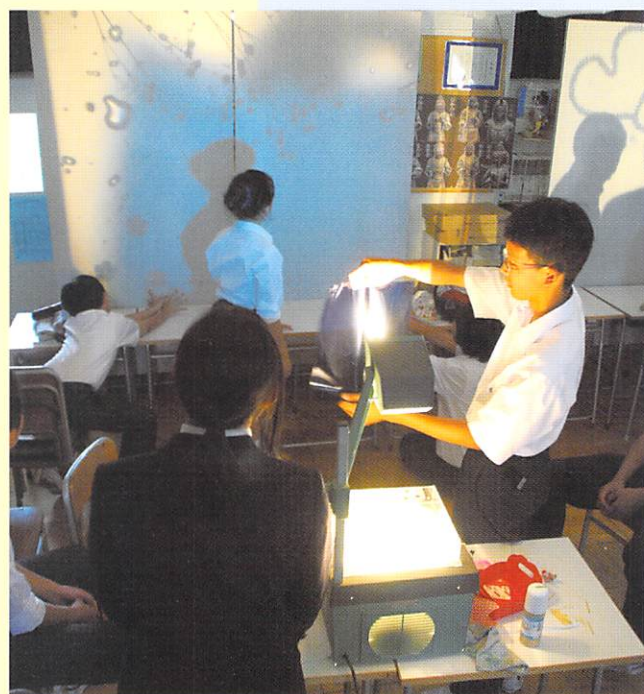
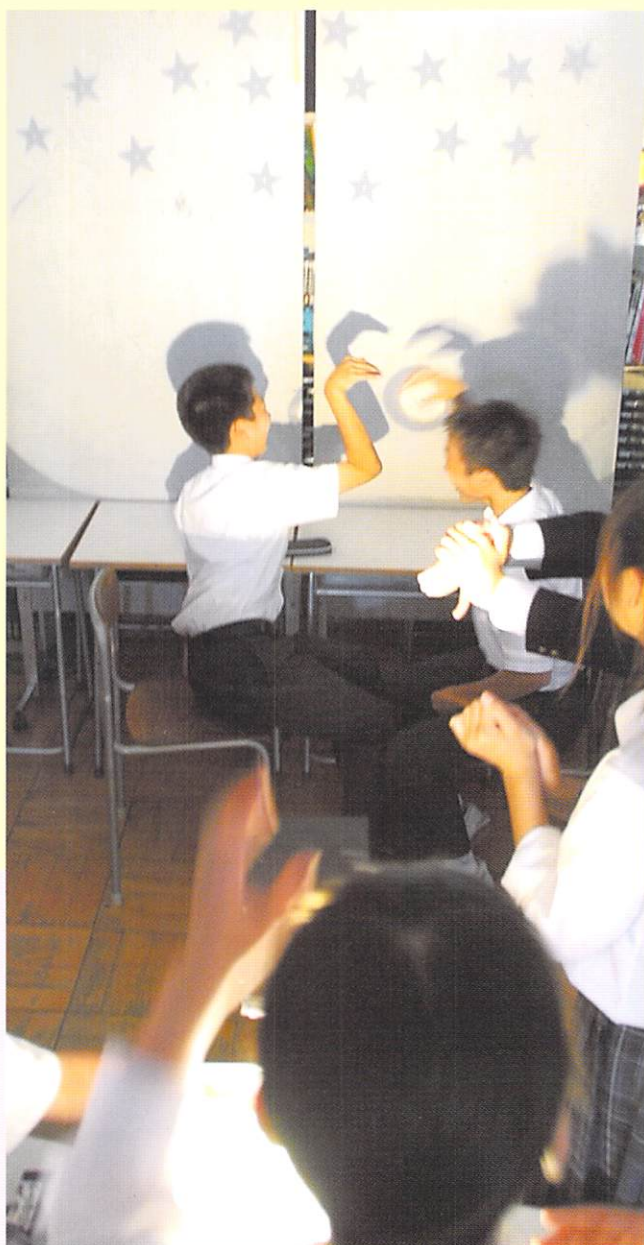


第32回 東京都中学校美術教育研究大会
第3ブロック中野大会

つながり、ひろがり、翔く
～ 感じること と 表すこと～



● 平成26年(2014年)11月28日(金)

● 中野区立第二中学校

第32回 東京都中学校美術教育研究大会
第3ブロック（中野・練馬・杉並）中野大会

研究テーマ

つながり、ひろがり、翔く～感じるごとと表すごと～

平成26年(2014年)11月28日(金)

会場：中野区立第二中学校

《主催》

東京都中学校美術教育研究会

《後援》

東京都教育委員会 東京都中学校長会

中野区・練馬区・杉並区教育委員会

中野区中学校長会 中野区中学校PTA連合会

紀要目次

ごあいさつ	3
中野区教育委員会 教育長	田辺 裕子…3
東京都中学校美術教育研究会会長	葛飾区立大道中学校長 殿村 靖廣…4
第32回東京都中学校美術教育研究大会実行委員長	中野区立第二中学校長 池田 浩二…5
1、大会実施要綱	6
2、基調提案	7
「つながり、ひろがり、翔く～感じるごとと表すこと～」	杉並区立天沼中学校 大出 和広
3、研究授業指導案	8
研究授業① 「私の形を表現しよう」～羊毛を使って～	
中野区立北中野中学校	福島 淳子…8
中野区立第三中学校	川見 晶子
研究授業② 「写真を空間で体験し、味わおう」～杉本博司の「劇場」鑑賞～	
杉並区立中瀬中学校	福田 龍郎…10
研究授業③ 「スケッチで再発見」～描くことを通してクラスメートを知ろう！～	
杉並区立井草中学校	猪口 正和…12
研究授業④ 「つながる形・組み合わせる色」～連続する幾何学模様～	
練馬区立上石神井中学校	中三川 舞…14
研究授業⑤ 「紙ひも半立体」～紙ひもから、無数の可能性～	
練馬区立練馬中学校	須賀田美佐子…16
研究授業⑥ 「文様版画（スタンプ）でみんなとつながろう」	
～「つながる」ことから生まれる面白さ・美しさ	
練馬区立開進第三中学校	高野 朱未…18
4、研究誌上発表	20
誌上発表① 「木版画で抽象画」～色と形の挑戦、心つないで～	
中野区立第五中学校	花里 裕子…20
誌上発表② 「学校の妖精」～塑像作品はデジカメで完成する～	
中野区立南中野中学校	内田 善人…22
誌上発表③ 「アートでつながろう」～言語活動を取り入れた鑑賞活動～	
杉並区立東田中学校	鈴木ひとみ…24
誌上発表④ 「自己を見つめて」～自画像の制作～	
杉並区立東原中学校	宮越 一昭…26
誌上発表⑤ 「3Dプリンターの活用を考えよう」	
練馬区立光が丘第三中学校	伊澤 桂一…28
誌上発表⑥ 屏風に名画を描く	
練馬区立大泉第二中学校	高村 輝美…30
5、あとがき	32
大会副実行委員長	練馬区立豊玉中学校副校長 江川 誠志
6、大会運営組織一覧	33
7、研究大会開催地一覧	34

ごあいさつ

中野区教育委員会教育長

田 辺 裕 子



平成 26 年度 第 32 回東京都中学校美術教育研究大会 第 3 ブロック中野大会が、研究テーマを「つながり、ひろがり、翔く」～感じること と 表すこと～と掲げて、盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。

さて、現行の中学校学習指導要領の美術科では、子どもの発達段階に応じて小学校の図画工作科や高等学校の芸術科との連続性に配慮して、共通に働く資質や能力を整理するとともに、生活や環境の中の造形のよさや美しさなどを感じ取る学習や、自分の気持ちや伝えたい内容などを形や色、材料などを生かして他者や社会に表現する学習を一層重視しています。

まさに本大会の研究テーマである「つながり」、「ひろがり」、「感じること」、「表すこと」は、現在の美術科教育のキーワードであり、日々の授業を通して実践し具現化していく力量が指導者である教師に求められてくると言えます。

中野区では、学びの連続性を踏まえながら、「学力向上」「体力向上」「心の教育の充実」を柱とした教育活動を展開し、児童・生徒に対して「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」ことを目指して、平成 25 年度より「小中連携教育」に取り組んでいます。小学校 6 年生を対象として中学校での授業見学や授業体験、部活動見学や部活動体験などを行う「オープンキャンパス」の実施や、小中学校それぞれの教員が、相互に乗り入れて授業を行う「乗り入れ指導」の実施など、具体的な取組を行っているところです。これにより、小学生は中学校への憧れの気持ちをもつとともに、中学生は中学生としての自覚や自己有用感を高めることができています。そして、何より、小中学校の教員が共に指導に関わることで、お互いの指導観や指導法・指導技術を学ぶことができ、授業力の向上や 9 年間の連続性のある教育課程の展開につながっています。本会の研究が、生徒一人ひとりの感性や情操を養い、心豊かにたくましく生きていく力の育成につながり、本区及び第 3 ブロックのみならず、東京都全体の教育の向上に資する取組として成果を上げていただきますことを大きく期待するものであります。

結びになりますが、今年度の会場校である中野区立第二中学校をはじめ、本研究大会の開催にあたり、ご尽力いただいた多くの先生方ならびに関係の皆様へ感謝申し上げますとともに、本大会の益々のご発展を祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。

ごあいさつ

東京都中学校美術教育研究会

会 長 殿 村 靖 廣



この度、第3ブロック（中野区・練馬区・杉並区）の3区が一体となり、中野区を会場として、第32回東京都中学校美術教育研究大会が開催されるはこびとなりました。

昨年度は、10年ぶりに「全国造形教育研究大会」が東京で開催されたため、第2ブロック（新宿区・世田谷区・渋谷区・目黒区）と全国造形教育連盟・東京都図画工作研究会との共同開催の形で研究大会を開催しました。

大会のテーマは「造形教育のダイナミズム」として、「成長」と「連携」の2つの視点で、研究を行ってきました。視点として取り上げた「成長」とは、単なる心身の成長・発達と捉えるのではなく、造形美術活動の体験を通して「感じる」「発見する」過程の中で経験を積み重ねていくことによって身についてくる総合的な力としての「育ち」と捉えました。また、「連携」とは、異校種間の連携といった「つながり」としての縦軸の関係だけではなく、他者（個、集団）や環境、地域社会等との「かかわり」など、横に広がっていく「連携」と捉えました。研究実践において、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・特別支援の校種と美術館との共同研究は、造形美術教育のあり方を見直していく良い機会となり、特に、校種を超えた「指導の連続性」「学びの連続性」は、これからの造形美術教育の方向性を示すきっかけとなりました。現在、異校種間の連携を推進している区市町村の取り組みが活発になってきています。今後、教科の連携だけではなく学校のあらゆる活動を通して、児童・生徒の「学び」を生み出していく取り組みへと発展していくと確信しています。

今回の第3ブロック大会は、昨年度からの流れを受けて「つながる」をキーワードに研究がすすめられてきました。大会テーマも「つながり、ひろがり、翔く」～感じることと表すこと～として、造形美術教育を通して、様々な事象と「出会い」「発見し」「かかわり」を持たせる実践を行ってきました。生徒の個々の感性を高めていく中で、「教師のかかわり」と「生徒の学び」について研修を深めていきたいと思っています。

東京都中学校美術教育研究会は、都内を10のブロックに分け毎年テーマを設定して取り組んでいます。都内のすべての地区において研究大会を行っていくことで、造形美術教育の在り方や新しい授業づくりに向けて発信し、美術科教員の資質の向上に向けた活動として位置づけられています。特に、「教科研究部」が中心となって開催する「夏季研修会」は、年々活動の輪が広がり充実した研修会となっています。これからも、毎年行われる研究大会と教科研究部の研修テーマをリンクさせながら造形美術教育に携わる美術科教員の授業力向上の原動力にしたいと考えています。

本研究大会開催にあたり、中野区・練馬区・杉並区の各教育委員会をはじめ各中学校校長会、各教育研究会、各関係機関には、ご支援とご理解を賜り誠にありがとうございました。さらに、中野区立中野第二中学校の校長先生を始め教職員の皆様には、多大なご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。そして、本研究大会の研究成果を各地区に発信し実践の一助にさせていただけるようお願いいたします。

ごあいさつ

第 32 回東京都中学校美術教育研究大会実行委員長 中野区立第二中学校長 池田 浩 二



このたび、第 32 回東京都中学校美術教育研究大会第 3 ブロック大会が、中野区・杉並区・練馬区の共同のもと、ここ中野区で開催されますことを、大変喜ばしく意義深いことと感じております。

社会状況の変化とともに、美術教育に関わる状況にも大きな変化が見られます。美術の授業にもタブレット端末が導入され、子どもたちは最先端の機器をいともたやすく扱って自分たちの感情を表現し、独自の表現方法を生み出していきます。そしてそれは今後ますます加速していくことが容易に想像されます。そのような急速な変化の中、私たち美術教育に携わるものは、常に研修を続け、何を流行として取り入れ、何を不易として留めていかなければならないかという課題に正面から取り組んでいかなければならないことを痛感させられます。

本大会は、「つながり、ひろがり、翔く」～感じることと表すこと～をテーマに、開催の準備をしてきました。そして、準備を進める中で私たち一人一人が、美術教育の今置かれている状況を見つめ直し、連携と発展そしてさらなる可能性について考える機会と大きな課題を得ることになりました。

本大会では 3 ブロックの各地区から、6 本の研究授業と 6 本の誌上発表を準備しました。「つながること」「ひろがること」そして「さらなる可能性に翔くこと」を意識した授業実践と誌上発表では、「表現」と「鑑賞」とのつながり、「基礎・基本」から「応用」へのひろがりを意識しました。それらの実践から生まれる可能性について感じ取っていただければと考えています。

また、新学習指導要領では、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性等を考慮することが求められています。その具体的な方策として、家庭や地域社会との連携を深めることや、中学校間や小学校、高等学校及び特別支援学校などとの連携や交流を図るとともに、障害のある児童生徒との交流及び共同学習の機会を設けることが示されています。本大会を開催しました第 3 ブロック内の中学校にも、特別支援学級が設置されている学校が多くあり、魅力あふれる授業が展開されています。そこで、本大会では特別支援学級との交流授業を、私たちが日頃実践している美術の授業につながるもの、ひろがるものとして捉え、研究授業のひとつとしました。この授業の可能性についても大きな期待を込めて提案させていただきます。

最後になりましたが、本大会の開催に当たり、ご指導ご支援をくださいました東京都教育委員会、中野区教育委員会をはじめ杉並区・練馬区の各教育委員会、各地区中学校長会、各地区教育研究会、関係機関の皆様、並びに本日ご講演を賜ります林伸太郎様に厚くお礼申し上げ、あいさつとさせていただきます。

大会実施要綱

テーマ 「つながり、ひろがり、翔く」～感じることと表すこと～

期 日 平成 26 年（2014 年）11 月 28 日（金）

会 場 中野区立第二中学校

体育館 (全体会・作品展示)

美術室・普通教室 (研究授業・研究協議)

内 容

(1) 研究授業 〈時間〉13:30～14:20 〈場所〉各教室

①「私の形を表現しよう」～羊毛を使って～

中野区立北中野中学校

福島 淳子

中野区立第三中学校

川見 晶子

②「写真を空間で体験し、味わおう」～杉本博司の「劇場」鑑賞～

杉並区立中瀬中学校

福田 龍郎

③「スケッチで再発見」～描くことを通してクラスメートを知ろう！～

杉並区立井草中学校

猪口 正和

④「つながる形・組み合わせる色」～連続する幾何学模様～

練馬区立上石神井中学校

中三川 舞

⑤「紙ひも半立体」～紙ひもから、無数の可能性～

練馬区立練馬中学校

須賀田美佐子

⑥「文様版画（スタンプ）でみんなとつながろう」

～「つながる」ことから生まれる面白さ・美しさ

練馬区立開進第三中学校

高野 朱未

(2) 研究協議 〈時間〉14:40～15:20 〈場所〉研究授業と同教室

(3) 全体会 〈時間〉15:30～17:00 〈場所〉体育館

① 開会の言葉

司会者

練馬区立光が丘第一中学校

朝倉 弘行

② 主催者挨拶

都中美教育研究会会長

葛飾区立大道中学校長

殿村 靖廣

③ 実行委員長挨拶

大会実行委員長

中野区立第二中学校長

池田 浩二

④ 来賓祝辞

中野区教育委員会教育長

田辺 裕子

⑤ 来賓紹介

司会者

⑥ 基調提案

杉並区立天沼中学校

大出 和広

⑦ 講演 「ものづくりと気づき」

義肢装具士

林 伸太郎

先生

⑧ 謝 辞

大会副実行委員長

練馬区立石神井東中学校長

堀井 安伸

⑨ 次回大会実行委員長挨拶

東村山市立東村山第七中学校長

川崎 達也

⑩ 閉会の言葉

司会者

基調提案

「つながり、ひろがり、翔く」 ～感じることと表すこと～

杉並区立天沼中学校
大出 和広

昨年度の研究大会は、「造形教育のダイナミズム」をテーマとして、成長と連携の二つの視点で研究を行いました。提案された「成長」としての育ちと「連携」のつながりは、今後の造形美術教育の方向性を示すきっかけとなりました。

今年度、夏季研修会において「成長」と「連携」をテーマとして、授業力向上に向けた研修を進めてきました。研修の中で、①「他校種との縦のつながり、企業や美術館等との横のつながり」、そして、②「成長」をキーワードに、資質・能力の核となる「発想構想の能力」、さらに、③日々の授業の中で捉え直す「育成する資質・能力の明確化」の三本の柱が示されました。

本研究大会では、昨年度からの研究成果をさらに具現化していくことをねらいとして、大会テーマを「つながり、ひろがり、翔く、感じることと表すこと」としました。「つながり・連携」、「育成する資質・能力の明確化」に重点を置き、基本に立ち返りたいと考えています。そして、授業の中で教師が当たり前に行っていた「つながり・連携」をもう一度丁寧に捉え直し、「生徒に身に付けさせたい資質・能力」の育成に向けた授業を展開していくことで、成果と課題について検証していきたいと考えています。

テーマの「つながる」とは、他者（個・集団）とのつながり、社会（地域・企業）とのつながり、自然的な環境とのつながり、物とのつながり、知識とのつながり、自己の内面とのつながりと捉えました。そして、聞く、知る、考える、話すといった言語活動（コミュニケーション）とともに、見る、触れるなど視覚・触覚活動など駆使して、様々な事象と出会うこと、発見することにつなげていきたいと考えています。

「ひろがる」とは、生徒自身が、更なる出会いを求め「つながる」ことを拡張、深化させたり、より豊かな感受性を得るために感覚や知覚を磨いて感性を高めさせたりするなど、自ら探究心を高め、資質・能力を伸ばしていくことと捉えました。

「翔く」とは出会い、発見し、探究したものを、生徒が自らのものとすることで「受け継ぐ」「発信、表現する」ことであり、上記の一連の活動が互いに関わり合っていくことで、生徒個々の感性を高めていくことにつながるのではないかと考えました。

以上のことを踏まえ、これら一連の流れにおいて、教師がどのように関わり、生徒の学びを導いていくべきか皆さんと検討していきたいと考えています。

授業名 **「私の形を表現しよう」～羊毛を使って～**

授業者氏名 中野区立北中野中学校 福島 淳子 中野区立第三中学校 川見 晶子
 事前授業協力者 中野区立第二中学校 矢作 靖子 中野区立第二中学校 島田 昌洋

- ・学習指導要領の項目 A表現(1)イ(3)ア・B鑑賞
- ・特別支援学校中学部学習指導要領 美術：内容(1)(2)(3) 自立活動3の(1)(4)・6の(1)(2)
- ・時間 全3時間中の3時間目 特別支援学級 全4時間中の4時間目（鑑賞）
- ・対象学年 1学年（28名、アイ組11名、計39名）

●**基調提案との関連**

自然素材（羊毛）を題材にして、感性を働かせながら発想構想を広げて、心豊かに自分を表現する。「私の形」について考え、自己の内面を見つめ、材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現する。さらに、作品を発表し、鑑賞し合う活動を通して、言葉を交わし、他者となつながら、自然素材となつながら、自己の内面ともつながる。仲間や自分自身を大切にし、互いの作品のよさや美しさを味わい、認め合える関係を育む。

●**育成する資質や能力**

羊毛は、柔らかい手触りで丈夫でコシがある繊維であり、水分や圧力によって繊維の表皮部分が絡み合いフェルト化する性質を持っている。羊毛のふわふわとした感触を味わい、手のひらからじかに伝わってくる感覚を楽しめる。また、ほとんどの生徒が初めて出会う素材で、先入観が邪魔することなく主体的な取り組みを促し、自己肯定感、達成感が高められると考え、教材に選んだ。

同年代の仲間（通常学級と特別支援学級）となつながら、作品のよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、意欲をもって主体的に取り組む、やり遂げた喜びを味わわせる。

●**交流及び共同学習について**

共に美術の活動をする中で、相手の立場になって考え協力することができること、交流学习を通じて互いの作品のよさや美しさに気づき、伝え合うことができることを目指す。このことは美術の授業で身につけやすく、日常的に行われるようになれば、他者とのコミュニケーションによる理解がスムーズに行われ、さらに美術を愛好する心情が深まり、良い雰囲気学級の学級・学校となっていくと考えた。

●**共通事項について**

形と色彩、羊毛の性質や特徴、それらがもたらす感情を理解する。

●**準備物**

- 【教師】制作過程の映像、鑑賞用ワークシート、テレビモニター、DVDプレイヤー、布
- 【生徒】筆記用具、作品、発表原稿

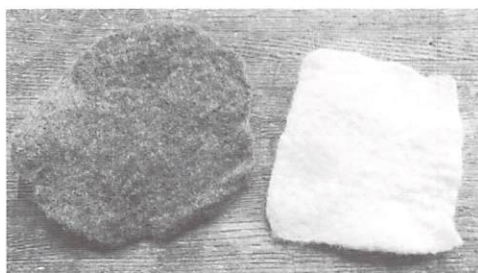
●**本時の評価について**

評価の観点	題材の評価規準例
美術への関心・意欲・態度	鑑賞することを楽しんでいる。 友達の作品に関心をもち、羊毛の特性や美しさや作者の意図や願いなどを感じとり、作品に対する思いや考えを説明し合おうとしている。 交流及び共同学習に主体的に参加し、理解を深め、美術を愛好していこうとする。
鑑賞の能力	感性や創造力を働かせ、制作者の心情や意図と表現の工夫・形や色彩など材料の特徴や印象・多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わう。 自分の思いや考えを述べるなどして、いろいろな見方や感じ方などを知り味わう。

●学習の流れ（全3～4時間）

- ・ 1時間目：題材「私の形を表現しよう」の説明・導入（発想・構想を広げる。）
- ・ 2時間目：材料の特性を理解して私の形の制作（羊毛の特性を生かして表現する。）
- ・ 3～4時間目（本時）：作品完成発表・展示会（3/3時間目・特別支援学級は4/4時間目）

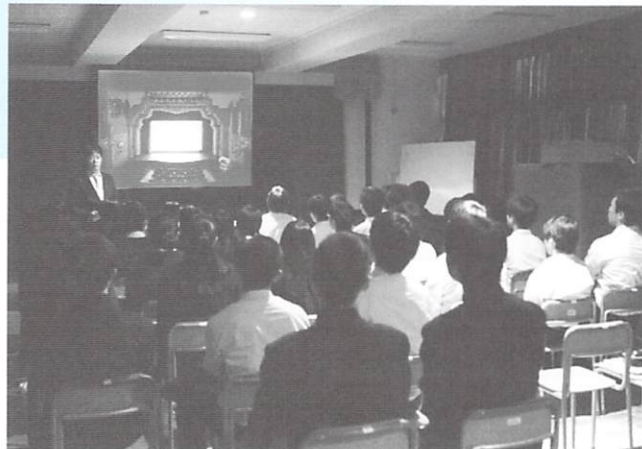
時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価 (ゴシック体は特別支援学級)
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ交流しやすい適切なグループ分けをしておく。 ・ 1時間の学習の流れを黒板脇に掲示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しをもって授業に取り組もうとしている。 ・ 課題について注目し理解しようとしている。(活動の様子) ・ 自分の言葉で記入しようとしている。(活動の様子・ワークシート) ・ よさや美しさ、工夫したところを認め合おうとしているか。(発表の様子、聞いている様子) ・ 集中して取り組んでいる。 ・ 発言できている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や他の人の作品のよさや美しさや制作の工夫を感じ取り、認め合おう。 ・ 思いやりの気持ちをもって仲間と一緒に学習しよう。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作の様子を画像にて振り返る。 ・ 気づいたこと等を鑑賞ワークシートに記入する。 <p>班内発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班の中で作品「私の形」を見せて、色や形や工夫したところの説明を添えて自己紹介をする。 ・ 記入したことを読んで伝える。 ・ 「いいね。」と認め拍手する。 ・ 自己紹介が終わった班から、全体発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作の様子をまとめた画像を見せる。(視聴覚機器の利用) ・ 画像に注目させ、羊毛の手触りや性質等の感覚を思い出させる。 ・ ワークシートの意味を説明し確認させる。 ・ 班での自己紹介の進め方を説明し、見てほしいところに着目させる。 ・ 発表が苦手な生徒は、グループで助け合わせる。(隣の人がワークシートを代読する等) ・ 全体発表・展示の準備を通じて、お互いの学級の生徒が関わるきっかけをつくる。 	
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入しながら、全体発表の準備を行う。 ・ 見せ方、並べ方、代表で話す人、など相談、役割分担を確認する。 <p>全体発表・展示会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ全員の作品を並べて見せて、見てほしいところ、伝えたいこと、班内発表の感想などを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導で、発表のための準備ができたか確認させる。 ・ 発表会の状況に合わせて助言指導する。 ・ 発表順は、あらかじめ決めておく。 ・ 他の班の発表を聞き、作品を鑑賞し、お互いのよさや美しさ、工夫したところなどに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの作品のよさや美しさ工夫したところを伝えようとしているか。感じ取ろうとしている。 ・ 相手の話に耳を傾けようとしている。(活動の様子、ワークシート)
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞（全体発表・展示会）を通じて感じたこと、気づいた内容をワークシートに記入し、伝え合う。 ・ 美術を通して交流できたことこれからも美術を愛好し豊かに生きてほしいことを確認して、感謝の拍手で終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気付きが促される発問、声掛けをしてお互いのよさに気づかせる。 ・ 鑑賞した作品について、発表について、交流して一緒に活動したことについて、振り返りを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品鑑賞を通じてお互いの作品のよさや美しさに気づき、認め合おうとしている。



授業名 「写真を空間で体験し、味わおう」 ～杉本博司の「劇場」鑑賞～

学校名 杉並区立中瀬中学校

授業者氏名 福田 龍郎



- | | |
|------------|------------|
| ・学習指導要領の項目 | B 鑑賞 (1) ア |
| ・時間 | 3 時間 |
| ・対象学年 | 2 学年 |

●基調提案との関連

本題材は、杉本博司の写真作品「劇場」を大画面で鑑賞させる。この鑑賞を通じて、生徒たちに相互作用のある学習活動をさせることで、個人として、また集団として価値意識をもって関わり合わせる。互いの意見、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を知ることで、美意識を高め幅広く味わい、感覚や感性を広げさせることを目指す。さらに鑑賞によって学ばせたことを、今後は表現にも活用させることを図る。

●育成する資質や能力

劇場を模して配置した椅子と暗室、大型スクリーンとプロジェクターの投影という、装置としての空間的インスタレーションによって、生徒たちは自身が作品の劇場にいるかのような体験をする。このことから、①発見－個々に意見をもたせる ②気づき－情報を得て、見つめ直す、他者との関わりの中での気づき ③新たな見方や感じ方－造形的な要素などの見る視点を与える、更なる自分の発見・気づき、自分の中に意味や価値をつくり出すことをねらいとした。また学習指導要領のB鑑賞(1)アより、自分の美意識を働かせ、様々な視点で作品が語りかけてくるメッセージを捉え自分の中で問い返したり、他者の見方も取り入れて、多様な視点から作品に対する考えを深めるとともに、作品に対する自分の価値意識をもって批評しあい、美意識を高めることもねらいとした。

空間的に作品を鑑賞させ、鑑賞ワークシートを書かせる。発見や気づき、見たことや感じたことを単語や短文、図などで付箋に書き込み、黒板に貼付けさせる。個々の生徒は作品を鑑賞しながら新たな発見や気づき、見方や感じ方を知ることができる。そして互いに意見を述べることや、鑑賞ワークシートと黒板に貼られた付箋から、話し合いによる鑑賞の能力や、文章力だけによらない鑑賞の能力を高めさせたい。

●[共通事項]について

杉本の「劇場」シリーズの形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解し、味わいながら観賞する。

●関連する今までの授業内容

- ・色彩、色の感情、明暗、グラデーションの学習。
- ・遠近法(透視図法、空気遠近法)の学習。

●準備物

【教師】ワークシート、付箋、ホワイトボード、パソコン、プロジェクター、スクリーン、マジック

【生徒】筆記用具、教科書

●評価について

評価の観点	題材の評価規準例
美術への関心・意欲・態度	(A) 作品に関心をもち、主体的に鑑賞しようとしている。 (B) 他者の意見から、対象の見方や感じ方を広げようとしている。
発想や構想の能力	
創造的な技能	
鑑賞の能力	(1) 発見－作品に対して自分の意見をもつことができる。 (2) 気づきや情報から、作品を見つめ直し、他者との関わりの中で気づくことができる。 (3) 自分の発見・気づきから、自分の中に意味や価値をつくりだすことができる。

●学習の流れ

- ・1時間目：写真作品を観賞しよう
- ・2時間目（本時）：「写真を空間で体験し、味わおう」
 - （導入）○ 3分：題材の目標と内容を理解する。
 - （展開）○ 42分：写真を空間で観賞し、個人と集団による活動をする。
 - （まとめ）○ 5分：本時を振り返る。
- ・3時間目：写真作品を制作しよう

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
導入 3分	・学習のめあてについて説明する。	・鑑賞の内容と活動について説明する。 ・作品について、作者名や題名、表現分野などは伝えないこと、自ら考え、想像しながら鑑賞することを伝える。		
展開 4分 1分 2分 20分	・「劇場」の鑑賞をさせる。 ・付箋とワークシート、マジックを配布する。 ・再度「劇場」の鑑賞をさせる。 ・作品の中で最も印象的だったこと、気になったもの、気づきや発見があったものを各自で考えさせ、付箋に記入させ、黒板に貼らせる。 また、相互の意見交換として、互いに気づいたことや疑問に思うことを、グループで話させる。 ・グループで話し合い、黒板に貼られた付箋を読みながら、考えを深め、ワークシート2に記入させる。	・静かに鑑賞するように伝える。 ・2回目の鑑賞の前に、付箋に発見したことや感じたことをメモするように伝える。 ・記入することは文章だけでなく、短文や単語、図でもよいことも説明する。 ・メモを書いた人から黒板に貼るよう伝える。 ・黒板に貼っていく中で、似た意見や考え、感じ方がある場合には近くに貼るよう伝える。 ・黒板に貼られた付箋を読み、新たに気づいたこと、発見したことも順次付箋に書き、貼ることを伝える。 ・人の付箋の意見を読み、ワークシート2に記入するよう伝える。 ・作者の意図や作品の主題を説明する。 ・同じ「劇場」のシリーズを5点観てから、最初の作品について考えをまとめることを伝える。 ・今日の観賞を振り返りながら、書くよう伝える。	(A) (1) (2) (2) (B) (A) (3)	・発見と意見の違いを説明する。 ・あらかじめ貼る場所を指示する。 ・他者の意見を否定させないようにする。
5分 10分	・「劇場」シリーズ作品を5点鑑賞する。1分×5(5点目は最初の作品) ・ワークシート3に記入する。			
まとめ 5分	・まとめ 本時の活動を振り返る。	・自分と他者の、それぞれの意見、感じ方、想像こそが大切であること、今日の学習活動のように自分自身で想像し、味わうことが大切であると伝える。		・個と他者との関わりに目を向けさせる
				・表現にもつながる学習内容であることを伝える。

授業名 **「スケッチで再発見」**
 ～描くことを通してクラスメートを知ろう！～

学校名 杉並区立井草中学校

授業者氏名 猪口 正和

- ・指導要領の項目 A表現(1)ア
- ・時間 2時間
- ・対象学年 1学年

●**基調提案との関連**

本題材はスケッチを通じてクラスメートのことをより知ろうというものである。
 4月の入学式から半年経ったこの時期に、改めてクラスメートの顔をよく観察して、自分の手を動かしてお互いの顔をスケッチする。タッチの強弱、濃淡。強調や省略。完成した作品からは、作者が感じた相手の生命力、個性、性格、雰囲気が出し、絵だからこそ味わえる新たな発見があると考え。また描かれる側も、相手が自分をじっと見つめ、丁寧に描いてくれるのは恥ずかしくもあり、また嬉しくもあるのではないだろうか。その後のフィードバックの中で、一人一人が自分の思いや工夫したことなどを発表したり、相手のよさを認め合ったりして、互いが学んだことを共有化することで、作品の見方や完成の達成感がひろがり、深まっていくと考える。

描く・描かれるという関わりの中で互いを見合い、感じ取り合いながら相互理解を図り、他者とのつながりを改めて感じさせていく。

●**育成する資質や能力**

- ・見る力、感じ取る力、考える力、描く力を育成する。
- ・よさや美しさを鑑賞する喜びを味わい、自分の思いを語り合うことによって鑑賞の能力を育成する。

●**関連する今までの授業内容**

通常は4月最初のオリエンテーション後の題材として2時間前後行っている。

●**準備物**

【教師】ワークシート

【生徒】鉛筆

●**評価について**

評価の観点	題材の評価規準例
美術への関心・意欲・態度	対象を観察しようとしている。
発想や構想の能力	モデルの特徴や雰囲気を自分なりにとらえようとしている。
創造的な技能	意図に応じて道具の使い方を工夫しようとしている。
鑑賞の能力	自分の作品や友達作品について良さを感じ取り、作者の意図や心情を理解して作品を鑑賞しようとしている。

●学習の流れ

・ 1 時間目

(導 入) 15 分：授業者自己紹介。スケッチのポイントを説明する。

(展開 1) 15 分：授業者をモデルに生徒がスケッチする。

(展開 2) 10 分：スケッチにモデルのどんな雰囲気が表れているか感想を書く。

7 分：次回に向けて 2 (3) 人のグループをつくる。

(まとめ) 3 分：次回予告。

・ 2 時間目 (本時)

(導 入) 5 分：前時の振り返り。

(展開 1) 30 分：ペアになり、お互いをスケッチする。

(展開 2) 10 分：思いや工夫した点など感想を書く。互いに発表する。

(まとめ) 5 分：授業全体の感想を書く。

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
1 時間目	授業者がモデルとなり、スケッチする。 ポイント ・ 固定概念を捨てる ・ よく見て、描き切る	まず描かせる。 できた生徒から持ってこさせ、個別のアドバイスをする。	・ 関心意欲態度 ・ 発想構想 ・ 創造的な技能	・ 「似る、似ない」よりも、じっくりみて描く姿勢が大切であることを伝える。
2 時間目 導 入 5 分	教員モデルをスケッチしたものを 1 枚にまとめたプリントを配布。各自の個性を感じる。前時のポイントの振り返り	・ 印象に残る作品とその理由をあげさせる。 ・ よく見て描いてくれて嬉しいことを伝える。		・ 同じ人を描いても出てくる味わいは違うことに気付かせる。
展開 1 30 分	前回決めたペアになって互いをスケッチする。	描くことを通じて相手のことを知る意識を持たせる。	・ 関心意欲態度 ・ 発想構想 ・ 創造的な技能	・ 「似る、似ない」よりも、じっくりみて描く姿勢が大切であることを再確認させる。
展開 2 10 分	ワークシートに自分の工夫、描くことによって気付いたこと、感じたことを書く。 交換して互いに感想を書く。	描く前と後で何か変わったことはないか視点を向けさせる。	・ 鑑賞	相手のよいところを見つける。もらって嬉しい言葉を考える。
まとめ 5 分	本時の感想を書く。			

授業名 **「つながる形・組み合わせる色」**
 ～連続する幾何学模様～

学校名 練馬区立上石神井中学校

授業者氏名 中三川 舞

- ・指導要領の項目 A表現 (1) (2)
- ・時間 10 時間
- ・対象学年 2 学年

●**基調提案との関連**

2 年次になると、1 年次に学習した基礎・基本を生かし、より複雑な構想を立てられるとともに、自分のもつイメージをひろげるとともに具現化する楽しみを味わえるようになると思う。それを受けて今回、幾何学模様を構成するにあたって、生徒自身がもつ知識、技能だけでなく他の生徒から見た客観的な視点を取り入れることで色や形がもつ美しさ・面白さをより深化させ、葛藤や試行錯誤を繰り返しながらも、探求する面白さを伝えたい。また3 年次に向けて、見方や考え方、表現方法にさらなる多様性をもたせるために、生徒自身が考え、判断し、修正していくことで、より良い作品につながる手だてを研究したいと考える。

●**育成する資質や能力**

- ・今までの学習をもとに、表現方法を探求する姿勢（美術への関心・意欲・態度）
- ・テーマに沿って発想し、色や形の特性を生かして構想する力（発想や構想の能力）
- ・自身の表現をふまえ、他からの意見を取り入れて工夫していく力（創造的な技能）
- ・色、形の美しさを感じ、自他の作品の意図や良さを汲み取ろうとする力（鑑賞の能力）

●**【共通事項】について**

形や色彩がもつ性質や感情を理解することにより、意図的に構成された幾何学模様を発想、構想する。また、形や色彩の特徴を基に対象とするイメージを捉え、表現していく。

●**関連する今までの授業内容**

- 1 年次：ポスターカラーによる平面構成、レタリング、木彫
- 2 年次：絵文字、ポスター、木彫

●**準備物**

- 【教師】教材（プレゼンテーションソフト形式）、本番用画用紙（5cm × 5cm）、工作用紙（5cm × 5cm）
 参考作品、ワークシート、プロジェクター型電子黒板、パソコン、実物投影機
- 【生徒】教科書、資料集、スケッチブック、定規、色鉛筆

●**評価について**

評価の観点	題材の評価規準例（B 規準）
美術への関心・意欲・態度	自分のねらいを基に他からの意見を取り入れ、より良い作品となるよう積極的に修正、改善している。
発想や構想の能力	今まで学習したことを生かし、創意工夫しながら意図的に発想・構想している。
創造的な技能	自分で設定した主題に合わせ、意図が伝わるように表現方法を工夫している。
鑑賞の能力	設定された主題を汲み取り、色と形の組み合わせによる造形的な美しさ、作品の良さを味わうことができる。

●学習の流れ

- ・ 1 時間目：作品の特性を捉える、仕組みについて話し合う
- ・ 2 時間目（本時）：構想を練ろう～テーマの決定～
 （導入）10分：前時のふり返し、構想の注意点、テーマについて
 （展開）35分：アイデアスケッチ
 （まとめ）5分：まとめ、次時にむけて
- ・ 3～10 時間目：本制作、着彩、仕上げ、鑑賞

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
1 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ◎仕組みを捉える ・ 作品を観察してみよう。 ・ 参考作品を見て、どんな特徴があるか話し合い、発表する ・ 制作の手順の説明。 ・ 次時にむけて。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞した作品について発表させ、どんな特徴があるか、共通認識をもたせる。 ○仕組みを知り、構想におけるポイントを理解させる。 ○制作の手順を把握させ、計画的に制作する事を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 作品の特徴を、進んで捉えようとしている。（関心） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 様々な意見が出やすいような雰囲気をつくる。 □ 机間指導を徹底し、こまめな声かけを心がける。 □ 制作の手順を説明する際、見通しがもてるよう所々、生徒に声をかけながら進める。
2 時間目 導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ◎前時の振り返り ・ どんな特徴があったか確認する。 ・ 構想において、注意点を把握する。 <p>◎テーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の主題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に聞きながら前時のふり返しを行い、ポイントが理解できているか確認する。 ○注意点をプレゼンテーションソフトで図示し、注意点を理解できるよう促す。 ○各自で作品の主題を設定し、アイデアスケッチを進めるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 制作に具体的なイメージをもち、意欲的に取りもようとしている。（関心）（発想） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 生徒の発言や自由意見を取り上げ、個々が進んで制作を意識できるような雰囲気をつくる。 □ 注意点の説明をする際、生徒自身に考えさせるような発問を心がける。 □ 主題をアイデアスケッチにどう生かすか、こまめな声かけを心がける。
展 開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ◎アイデアスケッチ ・ 主題を意識しながら、工作用紙の目盛りをもとに、アイデアスケッチをする。 ① 動物、葉っぱ、花、文字などの主題を各自で設定する。 ② 主題を基に、幾何学模様を方眼紙に描いてみる。 ③ 描いた幾何学模様を基に、同じものを複数枚作り、隣り合う形がつながるか確認する。 ④ つながらない場合は修正しながら、1つの型を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の意図を理解させ、主題を基にした制作を促す。 ○ポイントを理解して、アイデアスケッチに取り組み始めるよう指導を行う。 ○注意点を再確認し、同じようなパターンになってないか指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 意図を理解し、意欲的にアイデアスケッチに取り組んでいる。（発想）（鑑賞） ◆ 自分が設定した主題を表現に生かしている。（発想）（技能） ◆ 独自の創意工夫ができてきている。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 生徒がどこでつまづいているのか、何を表現したいのかをくみ取れるよう、生徒に現在の様子を聞く。 □ 具体的な表現ができるよう机間指導を徹底し、適時アドバイスしていく。 □ 試行錯誤することを促すために、自分が表現したい事ができているか、安易なアイデアスケッチにならないよう指導していく。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ◎まとめ ・ どこまで進んだか、制作の感想、自己評価をワークシートに記入する。 ◎次時の授業について ・ 今日作った型を基に変化させながら3つのパターンを作って、お互いに見せ合うことを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各自で制作の振り返りを行い、次回の授業に向けた意識付けを行う。 ○ワークシートに記入することで、計画的に進める意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分の制作を振り返り、客観的な考え方ができる。（鑑賞） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自分を客観的にみられるように、意識付けを行う。
3～ 10 時間目	<p>< 3 時間目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎基本となる型を変化させた3つのパターンを作る ◎各自制作したパターンをもちより、グループ内で感想を言い合う。 ◎出た感想を基に、修正、改善し、制作したパターンの中から最終的な型を決める。 <p>< 4 時間目～9 時間目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎完成した型を基に、同じものを16枚作り、着彩する。 <p>< 10 時間目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎完成したものを画用紙に貼り、タイトルをつける。 ◎お互いの作品を鑑賞し、作品の感想および制作の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が作った基本形を基に、イメージを膨らませることを促す。 ○他者の感想を聞き、改善点があるか、さらに工夫できるところがあるか考えさせ、必要に応じて修正させる。 ○色の組み合わせや色のイメージを意識させる。 ○丁寧な着彩を心がけさせ、作る楽しさを味わえるよう促す。 ○画用紙に貼りながら、自分の意図に合うよう組み合わせる。 ○自他の作品の良さを味わい、感じたことを文章で表現する大切さを指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 設定した主題の意図に合わせ、進んで創意工夫している。（関心）（発想） ◆ 他者の意見を取り入れながら、より良い作品になるよう独自の表現に取り組んでいる。（技能）（鑑賞） ◆ 学んだ知識を生かしながら、効果的な着彩ができている。（発想）（技能） ◆ 意図に合わせて、作品を仕上げようと工夫している。（関心）（技能） ◆ 個々の良さを味わい、感じたことを自分の言葉で表現している。（関心）（鑑賞） 	<ul style="list-style-type: none"> □ どこを変化させると取り組みやすいか、イメージを膨らませやすいように具体的に示す。 □ 他者からの感想をうけて、どのパターンが良いか、また改善点があるか、自分の作品を追及する姿勢を大切にさせる。 □ 色の印象によって作品の雰囲気が変わることを意識させ、より効果的な色の組み合わせになるよう指導する。 □ 仕上がりを意識させ、より丁寧な制作を呼びかける。 □ 感じたことを言葉で表現する大切さを指摘し、鑑賞することの重要性を再確認させる。

授業名 **「紙ひも半立体」**
 ～紙ひもから、無数の可能性～

学校名 練馬区立練馬中学校

授業者氏名 須賀田 美佐子

- ・指導要領の項目 A表現(1)(3)
- ・時間 2時間
- ・対象学年 2学年

●基調提案との関連

「紙ひも」という、物をしぼる道具を教材として使用する。絵の具を使った絵画や、彫刻刀を使った木彫といった、一般的な美術教育の枠を超え、日常生活と美術との新たなつながりを発見したい。そして、主体的な創造力へのひろがり、自身の日常生活を豊かなものにしていこうとする心に翔いていくことを期待したい。

●育成する資質や能力

「紙ひも」は独特な質感の素材である。そのまま扱えば堅くて細く、広げれば薄くカサカサとした味わいのある一枚の紙となる。紙なので塑性力もあるため、折り曲げたりクシャクシャに丸めたりと、加工した状態をキープしながらも貼り付け方によっては土台から飛び出させることもできる。この特徴ある素材からどうイメージを膨らませ、素材感を生かした作品に仕上げることができるか、発想力、表現力が大いに試される。本来この題材は、10時間ほどかけて作品を完成させている。今回の研究授業を行うにあたり、作品のサイズを小さくし抽象画に限定することで、短時間だからこそ可能な个性的で大胆な発想につなげたい。

●【共通事項】について

紙ひもという素材から生み出される色彩や形の面白さを理解し、完成作品をイメージする。

●関連する今までの授業内容

小学校で行ってきた、紙、はさみ、のりなどを使っての、工作による技能が活かされる。

●準備物

- 【教師】板目紙、紙ひも、参考作品、プロジェクター、実物投影機、スクリーン、カッター
 カッターマット、セロテープ、ガムテープ、両面テープ
 【生徒】筆記用具・アラビックヤマトのり、はさみ

●評価について

評価の観点	題材の評価規準例
美術への関心・意欲・態度	紙ひもという素材に関心を持ち、主体的に様々な表現方法を試し、工夫しようとする姿勢が見られる。
発想や構想の能力	紙ひもの素材感を理解し、その性質にあったテーマを選ぶことができる。
創造的な技能	表現したいイメージを具体的にもちながら、紙ひもの質感を生かし、のりやセロテープ、はさみなどをうまく使ってイメージ通りに制作することができる。
鑑賞の能力	作品の造形的なよさや美しさを理解し、作者の表現の意図などを感じ取り、自分の思いや考えをもって作品のよさを味わうことができる。

●学習の流れ

- ・ 1 時間目：参考作品を見ながら、紙ひもの材質について理解し、作品の土台の制作を行う。
- ・ 2 時間目（本時）：紙ひもによる抽象表現
 - （導 入）10 分：抽象作品を提示し、抽象表現を理解させる。
 - （展 開）30 分：紙ひもをちぎったり、広げたり、丸めたりと、様々な表現方法を試し、土台の上に貼り付け、抽象作品を完成させる。
 - （まとめ）10 分：お互いの作品を鑑賞し合い、紙ひもという素材を通して生まれる様々な表現があることを理解し、その面白さを味わう。

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
1 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容、ねらいなどを説明する。 ・ 参考作品を鑑賞し、制作する作品をイメージする。 ・ 板目紙に紙ひもを貼り、土台を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙ひもの特徴を理解させる。 ・ ただ作品を見て楽しむのではなく、素材を生かした表現に着目させる。 ・ 実際に紙ひもに触れて質感を理解する。 	関心 技能	日常生活においては道具である紙ひもが、美術の材料となる意外性や、面白さを感じさせ、主体的に制作に取り組めるようにする。
2 時間目 導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抽象作品を鑑賞し、抽象表現について理解する。 ・ 紙ひもを使って、試作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的な抽象作品と紙ひも作品を関連づける。 ・ 紙ひもの様々な表現例を提示し、作品作りの参考とする。 	関心 鑑賞 発想	抽象表現を堅く考えさせず、伸び伸びと表現し楽しむことを意識させる。
展 開 30 分	手で様々な加工していく中で、造形的な面白さを発見し、土台に様々な表現方法で紙ひもを貼り付けていく。	同じ作業の繰り返しを行うなど、連続的に生み出される造形美のよさについても触れ、効率よく作業をさせつつ、できるだけ画面全体に盛り上げるよう貼り付けさせる。	関心 発想 技能	作業が進まない生徒には、具体例の中から気に入った表現を選ばせ、とりあえず真似て制作させていく。
まとめ 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の鑑賞を行い、今回の学習を振り返る。 ・ 制作についての感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの生徒作品を実物投影機で紹介し、様々な表現方法があることを理解させる。 ・ 作品について自己評価もさせる。 	関心 鑑賞	紙ひもという道具が、美術の題材になり得る意外性について理解させ、日常生活と美術とのつながりについて考えさせる。



授業名 「文様版画(スタンプ)でみんなとつながろう」 ～「つながる」ことから生まれる面白さ・美しさ～

学校名 練馬区立開進第三中学校

授業者氏名 高野 朱未

- ・指導要領の項目 A表現 (1) (2)
- ・時間 2 時間
- ・対象学年 1 学年

●基調提案との関連

文様構成の要素の1つである「連続性」を用い、自分の作品が他者とつながることで偶然に生まれる造形の美しさや感動を味わわせたい。また、その経験から、小さなことでも自分が何かを発信することで世の中とつながり、自分が新しい価値を創造する原点になれることを理解させることで、積極的に且つ自己肯定的に社会に関わっていくための「生きる力」を育む効果が得られると考える。

●育成する資質や能力

- ①対象を主体的に観察し、それを反映した自らの造形活動を積極的に行う能力 (関心・意欲・態度)
- ②しくみや条件をふまえて、明確な連続性や装飾性、構図を豊かに表現する力 (発想や構想の能力)
- ③構想した図形や図柄を適切に表現する力 (創造的な技能)
- ④伝統文化や他者の考えを理解し、その価値観を受容し、社会における美術の働きを理解する力 (鑑賞の能力)

●【共通事項】について

形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージを捉える

●関連する今までの授業内容

・形と材料 ・色彩理論

●準備物

【教師】 ワークシート、参考作品、参考資料、画用紙、模造紙 (作品展示用)、スチレン版画ボード、スタンプング用具、版画絵の具 (スタンプ用に準備)、霧吹き、新聞紙

【生徒】 筆記用具、コンパス、定規 (15 cm程度)

●評価について

評価の観点	題材の評価規準例 (B 規準)
美術への関心・意欲・態度	文様の特徴と連続性の原則を理解し、より良い制作をしようとする。
発想や構想の能力	テーマに沿った連続文様を豊かに発想し、効果的な構図や用具選択などの構想を練っている。
創造的な技能	作画・作図を追求し、さらに用具を使いこなすことでアイデアを明確に表現している。
鑑賞の能力	単独作品がもつもの、連続作品から生まれるものの双方に対して造形的な美しさを見だし、対象の見方を広げ深めている。

●学習の流れ

- ・1時間目：古今東西の紋様・文様の鑑賞を通して、そのしくみや造形的な美しさ・豊かさを理解する。
つながりの条件をふまえて作品の構想を練り、制作（版作り・一版刷り）をする。（作業の早い生徒は2版または彫り進み）
- ・2時間目（本時）：制作後、自分の作品と他者の作品を並べて鑑賞し、振り返る。
（導入）5分：鑑賞の目標と、作品の並べ方・発展のさせかたを理解する。
（展開）35分：共同制作において組み合わせ方を工夫しながら形の面白さ、偶然にできる美しさを発見する。（個人、クラス全体の活動）
（まとめ）10分：気づいたことや学んだことを記入し発表する。

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容と流れを説明。 ・文様の理解 ・紋様、文様の写真を通して、美しさやしくみを見付け、ワークシートに記入する。 ・テーマに沿って、自分の文様の構想を練る。 ・明確な線とスタンピングや描画による版を制作する。 ・試し刷りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料や参考作品を見せながら具体的に観点を提示する。 ・テーマの提示 ・自分の作品単独、他者作品とつながった時の両方で造形的な面白さや連続性を意識させる。 ・試し刷りをどんどんさせて「つながる」ことを早い段階で体感させる。 	<p>文様のしくみやテーマに即したアイデアをワークシートに記入できている。</p> <p>つながりのある版を完成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2時間の作業の見通しをもたせる。 ・ワークシートの記入や発言の積極性から課題を意欲的に深めようとしているかを確認する。 <p>【個別指導が必要な時の手立て】 アイデアは最低条件のつながりが担保できていれば線のみのシンプルさでも可とする。</p>
2時間目 導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ・本時の目標と作業工程を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の資料や生徒作品を提示する。 ・工程を板書し、自主的に作業が進められるようにする。 	作業の流れを理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の創作活動を振り返り、本時の目標を明確にした上で、テーマ性と作業手順を意識付ける。
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・共同制作用紙にスタンプをする。（20分） ・色や形の効果を考察しワークシートに記入する。 ・文様がつながることで生み出される効果を感じ取る。（20分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・偶然性の魅力を伝え悩みすぎず柔軟にスタンプするよう呼びかける。 ・効果的な表現が現れた時に、具体例として全体に紹介。 ・個、部分、全体など作品を見るポイントを示唆する。 	積極的にスタンプをし作品を発展させることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンプが行儀良く並ぶだけでなく、自由につながっていくことを引き出す。 ・一人で複数スタンプしても構わない。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートまとめ。 ・意見を発表する。 ・他者の発表や鑑賞をふまえて、本時の制作についての感想や自己評価をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながることにより意図的、偶発的な効果が生まれることを理解する。 ・個人的な造形活動の喜びから、他とつながる発展的な造形活動の価値を確認する。 	作品からつながりの効果や造形的魅力を見つけワークシートにまとめることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・共同制作や他者の意見から、個人では気付けないものの方や価値の創造があることを指摘する。

授業名 「木版画で抽象画」

～色と形の挑戦、心つないで～

学校名 中野区立第五中学校

授業者氏名 花里 裕子

- ・指導要領の項目 A表現(1)(3) B鑑賞(1) 共通事項(1)
- ・時間 9時間
- ・対象学年 2学年

●基調提案との関連 ●研究の目的

写実的に「上手く」描くことに興味がある年頃の生徒が忘れかけているのは、造形遊びのように素材と触れ合って発想することや、表わしていくうちに自分の気持ちに合う色や形に気づいて楽しむこと、「失敗も偶然の効果に」変える臨機応変さだ。自らが捉われる「上手い・下手」の狭い価値観を壊して自分の想いを思い切って表し、友達と語り合っ心をつなげる喜びを感じさせたい。

中野区はアールブリュットの展示が盛んだ。数ヶ月前には企画展のポスターが本校の目立つ場所に掲示され、生徒はその大胆な抽象表現に驚いていた。また、社会科で江戸時代の文化を学ぶ時期、さらに美術室には学校近隣の浮世絵制作をする版画工房の様子を詳細に映したDVDもあり、地域や他教科、図画工作との学びをつなぎ、広げる絶好のタイミングである。鑑賞と知識と表現を連動させ、表現と鑑賞の能力、感性をより高めてゆくような充実した活動にしていきたい。

●関連する今までの授業内容 ●指導の工夫

抽象絵画の鑑賞になると、急に自信がなさそうに発言が控えられてしまう、彫刻刀は「うまく使えないから」と使うことを躊躇する、そんな学年だ。まずはお互いが感じたことや想いなど自由に語りあう活動から発想して、クラス全員が表現に取り組み、失敗を怖がらずに工夫も悩みも認め合える気軽さを作ることが重要だと考え、色や形を発見して楽しめる影絵遊びを導入にした。グループで身体を使い表す活動は初めてだったが、驚くほどに全員が集中し、様々な素材の形や色のアイデアを出し合い、助け合いながら撮影をすすめた。セロハンやドライフラワー、砂やガラスにも美しい影ができることや、光源との距離からの発見をシェアしあう姿があった。「版を重ねるレイヤー効果」や「形を見立てる」などの版画、抽象画の制作との共通部分も多く、表した形から「お話作り」をする発想の活動も見られ、鑑賞と発想、表現がお互いにつながり、挑戦を楽しもうという雰囲気ができた。



OHPを使った影絵あそび。
(全2時間) 1時間目は身近な物の形を投影した。



その後のシュルレアリスムの学習にもつながった。

「OHPで人間大のハサミができたり、水の影ができることに驚きました。身のまわりにあるものでこんなに不思議で面白いものができるなんて知って少し感動しました。影になると見えるものはへるのに、新しくわかることもあるんだなと思いました。」(生徒作文)

●準備物

【教師】教室にデジタルテレビ、制作の手元を中継するカメラ(無線LANでテレビと繋げる)

影絵：〔OHP、デジカメ、さまざまな素材・砂やセロハンなど〕

木版画：〔わら半紙、墨汁、筆、新聞紙、釘、金槌、ドライバー、電動糸鋸、彫刻刀、版画板、ばれん、プレス機、水性インク、ローラー、インク練版、トレス台、洗濯ヒモ、洗濯バサミ〕

【生徒】筆記用具、教科書、美術資料、「ほりすすみ版画セット」

●学習の流れ

- 導入 (21)
- ・影絵 (2時間) で発想方法の幅を広げる。
 - ・教科書の抽象画、版画を鑑賞。
 - ・思いや祈りなど目に見えないものを表す形や色を考える、具体的なイメージを誇張 (デフォルメ) して抽象化する、こころのおもむくままに描いて形を抽出していく、スケッチをして、かたちを簡略化していく、など。

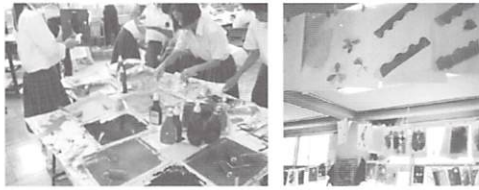
時間

生徒はそれぞれに言葉や音楽、好きな絵などから抽象的な形を発想していた。今回は、始めの構想にとらわれず、描いていくうちに気づいたことや心にわきあがってきたことを大切にさせたい。

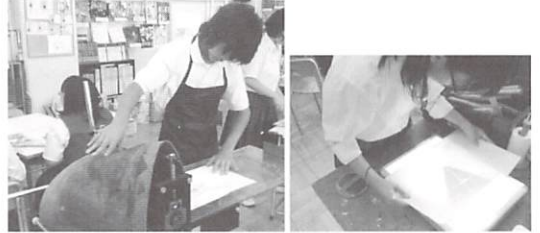


線的な表現だけでなくドローイングを楽しめるように墨汁と太い筆を用意した。教室内にアールブリュットのポスターをさりげなく掲示した。

- 展開 5時間
- ・糸鋸、釘、ドライバー、彫刻刀など、表したいイメージで道具が選択できるようにする。安全指導を徹底する。
 - ・プレス機の使用方法を学び、プレス機とバレンの印刷効果を自分で試しながら重ね摺りをしていく。5枚摺る。



・インクの後片付けもクラスの協力的な雰囲気です。素早い。
・美術室に張った洗濯ヒモ。乾燥しながら、鑑賞できる。

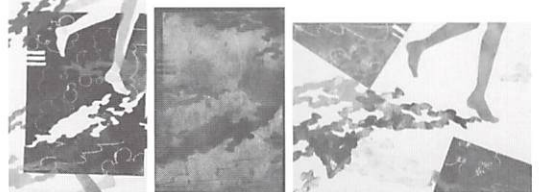


プレス機の扱い方を次の生徒へ説明するという流れが自然にできた。トレス台を見当に使う工夫を思いついた生徒。

まとめと評価 1時間

アダチ木版の浮世絵の制作をDVDで見る。緻密な毛彫りや摺りの工夫や美しさに、息をのんで画面を見つめていた。そして、自分たちで体験したからこそ、最後にできる言葉。「浮世絵ってすげえ。1枚欲しいな・・・」

- ・作品の向きや組みなども考えて、余白に鉛筆で題名、サイン、エディションをいれる。コメント用紙に自分の作品の「見どころ」を記入する。・全員の作品を並べて鑑賞する。それぞれの感想や意見を述べあい、鑑賞用紙の記入を通して、今後の自らの制作について考えさせる。



生徒作品 1枚の版からインクや紙の色、構成を変えて摺ったもの。左から「幻覚で進めない」「走り去ったあと」「弾む足、逢いに行く」

関：目に見えないものを形や色で表すことを楽しむ。感じ取ったことを話し合う活動に関心をもつ。

創：偶然にできる形や色の効果を生かす。自分の気持ちが表れるように、材料や用具の使い方を工夫する。

発：鑑賞を通して感じたことなどから発想を広げる。表わしていくうちに自分の気持ちに合う色や形に気づいて生かす。

鑑：形や色の使い方や表現の工夫について話し合い、見方を広げる。友達作品を見て、自分との違いや色や形の工夫を見つける。

●指導のポイント ●考察

共同で使用する道具も多く、協力する明るい雰囲気とルール作りが必要だ。「とりあえずの試し摺り」や不慮のインク染みなどの色と形から発想して版の下地色に生かしたり、ゴミ箱の切りくずから新たに版を作ったりするたくましさも見られた。また、作業の手元や参考作品をカメラで中継して美術室の大きなTV画面に映し出したことで、道具の使い方の説明だけでなく工夫を共有する楽しさが加わった。本校の美術室は教室と同じ席の並びと向きで通路も狭いが、参考作品を見るための立ち歩きもなくなり、それぞれが自席で集中できるようになった。その時その場で安全指導ができ、生徒自身も作業の見通しが立つことで不安なく取り組めたことは大きな効果だった。

●発展と広がり

今回、ほとんどの生徒が最初の下絵から離れ、版を重ねながら、色や形から何度も想像を広げて表したいことを模索していた。まとめで題名を考える場面ではどのクラスも楽しく盛り上がり、組み作品にしてお話作りをする生徒も多く、作品を何度も見返しては詩的な題名を発想しようとする様子が全体に見られた。また、浮世絵や現代版画の制作や歴史、購入方法や展示の仕方にも大きな興味を示した。何より「もっと版画の時間が欲しい。工夫したい。」のつぶやきに成長を感じた。

生徒達には課題や道具への苦手意識にとらわれず思い切って表現する楽しさと、友達と工夫やよさを話し合っところをつなぐ喜びを生涯持ち続けて欲しいと思う。そして、失敗も発想のきっかけのひとつと捉えられるような柔軟さや創造的な能力を今後も育てていきたい。

授業名 「学校の妖精」

～塑像作品はデジカメで完成する～

学校名 中野区立南中野中学校

授業者氏名 内田 善人



- ・指導要領の項目 A表現(1)イ
- ・時間 8時間
- ・対象学年 2学年

●基調提案との関連

制作は基本的に個人プレーと考えるが、生徒同士が互いに影響し合い作品を深めていく様子は授業の中で多く見られる。それが学校という場での制作の魅力といえるだろう。本題材では生徒達が毎日過ごす学校という環境の中で、ディフォルメされた自分の分身である妖精を写真で演出する。その課程で生まれる生徒同士のコミュニケーション、表現技法の試行錯誤を期待して設定した。個人プレーである制作は、生徒同士のつながりで広がり、作品としてその手を離れ多くの人に笑顔を与えるだろう。

●関連する今までの授業内容

PC、写真撮影の技能習得のため「学校～わたしの好きな場所～」という題材で校内を撮影し、そこに自作の詩を構成する授業も行っている。カメラアングルの参考作品として栗林慧さんの「虫の目レンズ」を使用した写真作品を鑑賞している。

●研究の目的

年間 35 という時間数でどんな題材を取り入れるか、年度当初は頭を悩ませる。その中で塑像を実施するとなると、やはりある程度のまとまった時間をかけることになる。そこには保存や展示という立体作品ならではの課題もある。それでも生徒は粘土をいじるのが大好きなので「自分を見つめ、表現すること」をテーマとして塑像を楽しみ、できるだけ短時間でまとめることができる題材を考えた。「学校の妖精」以前に「銅像になった自分」という題材で塑像+デジカメの授業を実施した。課題は写実的な自分の再現に力が入り塑像の技術指導によってしまったこと、それによって写真撮影の工夫に遊びや振り幅が広がりにくくなったことであった。そこで「学校の妖精」では肉体表現や衣服など造形上のディテールの省略をすることにした。



●指導の工夫

限られた時間の中では「指導内容に何を盛り込むか」という足し算よりもむしろ「指導したい内容から何を削るか」という引き算が重要と考える。本題材では「塑像表現の簡素化」が引き算の最大の要素である。芯材は 2mm のアルミ線で文字通り針金人間をつくる簡単なもの、二頭身に近い体型で衣服の表現は殆ど不要、関節や手足の表現も全く写実性を要求しない。ただし表情とポーズには力を入れ、撮影することを想定してアイデアを考えさせるようにした。撮影は二人1組とし、互いに助け合って工夫できるように、さらにスピーディーに進行するよう考えた。




●準備物

【教師】 デジタルカメラ（二人に一台）、芯材（2mm アルミ線）、ファンド、へら、ニス、PC

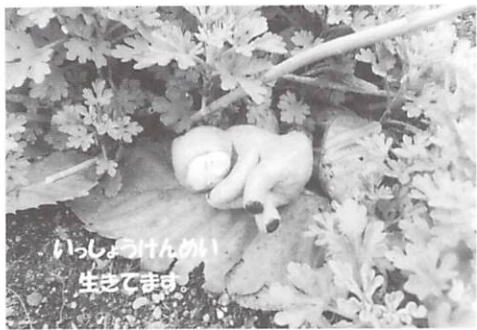
【生徒】 アクリル絵の具、彫刻刀、各自で制作と撮影に必要な道具や小物を準備

●学習の流れ

導入 1時間	<p>構想 1時間</p> <p>①自分が妖精になったら・・・設定をなるべく細かく考える 名前 体長 特徴（性格、生息地、たべもの）</p> <p>②妖精のデザイン、ポーズ、撮影場所を考える</p>	
展開 6時間	<p>制作 4時間</p> <p>①針金で骨格を作りポーズをつける</p> <p>②粘土を盛りつけ大まかな形を作る → 乾燥</p> <p>③彫刻刀で削って形を調整 → 再度粘土を盛りつけディテール制作 → 乾燥</p> <p>④アクリル絵の具で塗装 好みでニスを塗る</p> <p>撮影 1時間 作品を校内に設置し、デジカメで撮影</p> <p>画像処理 1時間 撮影した写真を PC に取り込んで構成、説明や台詞を入れる</p>	
まとめ と評価 1時間	<p>相互鑑賞会 1時間</p> <p>できあがった写真作品をスライドショーで鑑賞する</p> <p>作者が解説し鑑賞カードを記入</p>	

●指導のポイント

単に「妖精をつくる」のではなく、「自分が妖精になったらどんな容姿で、どんな性格になるだろう、何を食べて、毎日何をして生活するのだろうか？」と考えさせることに重点を置く。自分の性格（実は



腹黒い、寂しがりや、几帳面など)、長所や短所、好みや性格、生き方などを生息場所や色、形、ポーズ、特技、主食に反映させた妖精の相互鑑賞会では「なるほど」「似ている!」「確かにそんなところあるね」などという声が聞こえてきた。

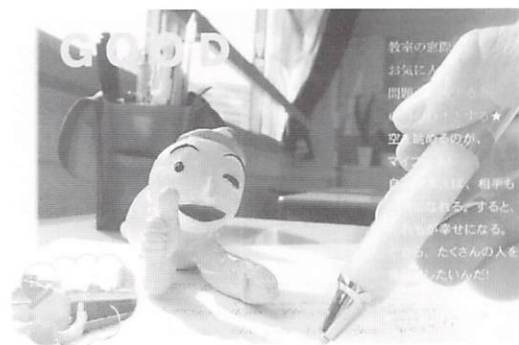
携帯電話やスマートフォンの普及で生徒は日常的に撮影する機会が多い。自分撮りなどで撮影に工夫を凝らすものもいるため、構図の工夫やフォーカスロック、アングルの変更などちょっとした知識を教えることによって表現力がずいぶんと広がる。

●考察

塑像の完成にデジカメを導入することは、造形が苦手な生徒でも見せ方によってよい作品を仕上げることが可能となった。制作者の意図を込めて場面を設定するため展示もより面白みが増した。さらに作品の保存性向上、共同作業による互いの表現の深まりという様々な要素を含んだものとなった。

●発展と広がり

日本人は昔から小さいものに愛着を持ち、自在置物や根付など、その小ささの中に技巧を凝らし、粋なものづくりを続けてきた。現在は食玩やプラモデルまでクオリティの高い造形物が身の周りにあふれている。小さなフィギュア作りに挑戦する中で、そんな身近な芸術品の素晴らしさに気づかせることができれば尚よいと思う。



授業名 **「アートでつながろう」**
～言語活動を取り入れた鑑賞活動～

学校名 杉並区立東田中学校

授業者氏名 鈴木 ひとみ

- ・指導要領の項目 B鑑賞
- ・時間 2時間
- ・対象学年 1学年

●基調提案との関連

本題材は言語活動の充実を目指し、アートカードを活用した鑑賞活動である。基調提案を鑑みて、美術文化への興味を高め、対象について考え・話し・聞き・知るという言語活動により他者と「つながる」こと、作品の見方や感じ方が「ひろがる」ことを意図している。本題材をとおして自分の気づきや学びを深め、それを表現する力を高め「翔く」ことを達成させたい。

●指導の工夫

導入部分におけるアートカードを使用したゲームでは、グループでの言語活動が活性化するようルールを工夫したり、付箋や書画カメラを活用し、各自の意見や考えが視覚化できるようにする。

●準備物

- 【教師】「スコープシリーズ アートポストカードボリューム2」(美術出版サービスセンター) 6セット
 ワークシート 説明シート 付箋 書画カメラ プロジェクター スクリーン
- 【生徒】筆記用具

●学習の流れ

導入	<p>グループにアートカード1セット、付箋1冊、説明シート、ワークシート人数分を配布する。ゲームのルールを説明する。</p> <p>①配布されたカードを、各自が七並べのように順に出す。カードを出す条件は、場に出ているカードと共通点があること。班員全員が納得できるように説明する。</p> <p>②リーダーは班員が発表した共通点を付箋に記入し、カードとカードの間に貼る。</p>
展開	<p>グループであがった共通点について振り返り、話し合いながら付箋を「形に関するもの」「色彩に関するもの」等に分類する。</p> <p>作品の共通点を探す活動を通して気付いたことについて考え、話し合う。対象の見方や感じ方には、形や色彩、材料、主題等、様々な観点があることを理解する。</p>
まとめと評価	<p>[まとめ]</p> <p>カードの中から好きな作品1点を選び、学んだことを活かして作品を鑑賞し、鑑賞カードを作成する。</p> <p>各自の鑑賞カードを書画カメラで投影し、グループ・学級で発表を行う。</p> <p>[評価]</p> <p>各作品を比較して、形や色彩など作品の細部から共通点を探そうとしたか。(美術に対する関心・意欲・態度)</p> <p>作品のよさや美しさを捉え、その良さや共通点を言葉で伝えることができたか。(鑑賞の能力)</p> <p>感じたことや考えたことを話し合ったり、カードに表し発表したりする活動を通して、対象の見方や感じ方を広げることができたか。(鑑賞の能力)</p>

●指導のポイント

作品の「共通点」を探す際に、見る対象と積極的に関わり、形や色彩、材料、主題、作品の年代等さまざまな観点からとらえられるよう、問いかけながら言葉を引き出すような助言をする。

班員に共通点を説明する場面や話し合い活動においては、自分の考えを相手に伝え、発表を聞き、意見を交換することができるよう、事前にルールや進め方を提示し、コミュニケーションが活発になるよう机間巡視をしながらはたらきかける。

●考察

共通点の分類においてどんな項目が多かったかと振り返らせると、形や色彩に属するものを挙げる班が多い。材料や技法、主題・作者の表現意図など多様な見方があることを知り、それらがもたらす感情を理解することで、鑑賞活動が豊かなものとなるよう導くことが重要である。

生徒達は共通点を探すことで、対象をよく見て感じ取ることの大切さに気付くとともに、異なる対象の見方・感じ方・考え方に会うことができる。自分の考えを説明し人と話し合う過程でさらに考えを深めていく生徒や、1枚の作品について「この色は何を表しているのだろうか。」と班員同士で議論する場面も見られた。導入部分でのゲームの活用は、生徒が美術を身近なものと感じ、興味・関心を高めるうえで効果的であると思われる。

●発展と広がり

アートカードを活用した鑑賞活動では、他者とのつながりを感じながら、さまざまな分野・時代の作品に触れることができる。本題材以外にも、さまざまな活用事例があるが、目的に応じて活用方法を工夫することが大切であると感じる。

感じ取った内容を言語で表現することにより、言語活動の活性化を図り、鑑賞の能力が高まることが期待される題材であるが、話す力・書く力や語彙量の個人差を、美術科の授業の中でどのように評価していくのか、という点についてはさらに研究を深めていきたい。



授業名 「自己を見つめて」 ～自画像の制作～

学校名 杉並区立東原中学校

授業者氏名 宮越 一昭

- ・指導要領の項目 A表現 (1) (3)
- ・時間 10時間
- ・対象学年 3学年

●基調提案との関連

自画像という題材は目新しいものではないが、義務教育最後の年に、また、進路選択の迫られる年に、心の中の自分と対峙し、自分自身を謙虚な気持ちで見つめ直そうとする自画像の制作は、中学3年の生徒にとってとても大切であると考えます。しかし、集団の中での授業において自分を表現するということは思春期の生徒たちには勇気のいることでもある。また、人物描写は、どうしても「似ている」「似ていない」という表面的な技能だけにとらわれてしまう生徒も多い。

本題材では、表面的な部分ばかりにとらわれずに、じっくり自分と対峙させ対象を深く見つめ、自己の内面をさぐり、整理し、それらを基に主題を生み出すことのできる発想や構想の能力と、形・色・材料などを駆使して主題を追究する生徒たちの姿勢を重視するとともに、制作やその後の発表を通して自己を認め合う心を育み、自己肯定感が高まるよう取り組ませたいと考える。

●関連する今までの授業内容

対象学年を3年とすることで、今までの創造活動の集大成として考えたい。継続的に行ってきたスケッチやクロッキーなどの描写の技術だけでなく、小学校図工での素材や用具とふれ合う体験や造形遊び、中学1年でのデザイン分野の色彩の学習や平面構成、2年でのモダンテクニックや粘土や針金を使った塑像や木彫など、今まで学んできたことを統合させて、個々の主題に合う描画材料、技法を自由に扱うように指導した。

●題材の評価基準

	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	①自分らしさを表現しようと意欲的に取り組むことができる ②制作、鑑賞のために相談活動を積極的に行うことができる	①ワークシートを活用し自分らしさを模索し把握することができる ②主題を伝えるために多面的に思考し構想することができる	①構想を美しく効果的に表現できるように用具を使いこなすことができる ②技術や技法の追求により形や色を生かして描くことができる	①自他の作品から新しい見方や感じ方を学ぶことができる ②作品にこめた思いや工夫を伝え合い、表現の奥深さに気付くことができる

●指導の工夫

生徒たちがいろいろな切り口で自己分析することで主題を明確にしないと、形や色に効果的に変換することはできない。そこで本題材では、自分という対象を様々な視点でとらえ直し分析できるよう言葉や文章で書かせ、主題を明確にさせるとともに、これまで身につけてきた形・色彩・材料などのもつはたらきを意識させながら創意工夫させ、自分の主題にあった表現方法や表現様式を選択できるよう配慮した。

形・色・材料を駆使して、自分のイメージを創意工夫しながら追求することを通して、より深く自己や他者を理解することの喜びや価値を自覚させたい。

●準備物

- 【教師】 鏡、画用紙（四つ切）、ワークシート、参考作品、色鉛筆、クレヨン、パステル、定規、コンパス、コラージュ用色画用紙、糊、紙粘土、針金、生徒が希望するさまざまな材料
 【生徒】 教科書、筆記用具、アクリルガッシュセット、その他各個人で制作に必要な物

●学習の流れ

	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導入	<ol style="list-style-type: none"> ①自分の性格や特徴を考え、自分自身を見つめてみる。 ②自分を取り巻く様々な事象や対象(ひと、もの、とき)と自分との関係を見つめながら主題を発想し、形や色彩、材料などの効果や構成などを考えながらイメージを広げ、構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使い、言葉で自己分析を整理させる。 ・他者の意見も取り入れながら、自分自身の考えを見失わないように注意させる。
展開	<ol style="list-style-type: none"> ①鏡を使い自分自身をスケッチする。 ②スケッチをもとに、自分を表すためにはどのような表情やポーズがふさわしいのかよく考える。 ③主題をわかりやすく伝えるために、どのような表現をするのか、ふさわしい表現方法や、表現のための材料を選択する。 ④表したいイメージをもとに色や形、材料、表現方法などを工夫しながら表現を追究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な視点を大切に、しっかりとスケッチさせる。 ・違う角度から描かせたり、目や口などのアップなどにも注目させる ・ポーズ決定を通して、自分自身の表現したい作品の主題を明確にさせていく。 ・人物と背景との関係など、構図を工夫させ、自分の意図を効果的に表現できるよう工夫させる。 ・写実表現に終始せず、いろいろな表現にも着目させ、素材や表現方法を工夫させる。 ・これまでに学んできた学習を想起させ、外見だけでなく、心の中を表すためには、どんな形・色・材料がふさわしいか考えながら制作させる。
まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> ①作品の主題は何か、自分はどのようにそれを表現しようとしたかをまとめ、発表しあう。 ②作者が作品にどのような工夫で自分自身を表現しようとしたのか鑑賞する。 ③自分が感じていた作者像と作者自身が感じている内面とを照らし合わせ、自分を描くことの深さを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形・色彩・材料などの工夫から作者の意図や表現のよさや美しさを自分なりの価値意識をもって鑑賞させる。 ・他者の作品の鑑賞を通して、表現することの深さや可能性、独自性の大切さを味わえるよう指導する。

●考察

自画像と似顔絵の違いが分からないと言っていた生徒たちが、制作が進むにつれ、外見よりも主張したいことや表したいこと伝えたいことを表現することの大切さを理解し、自分の内面に目を向けるようになった。そして、主題を表現するために一人一人が形・色・材料などを工夫し、多種多様な作品ができた。

導入部分で様々な参考作品を鑑賞する時間を設定するとさらに既成概念にとらわれない多様な表現に早く気付き、より自由な、発想・構想の広がりがみられるであろう。

The worksheet is titled "自分を写つめて" (Reflecting on Yourself). It contains several sections:

- ① 鏡をのぞいて自分の顔をじっくり見よう (Look into a mirror and look at your face carefully).
- ② 自分をもう一度見なおしてみよう (Look at yourself again).
- ③ テーマを表現するために、どんな作品にすればよいか (To express the theme, what kind of work should I do?).
- ④ 鑑賞作品の感想 (下欄)を添えてみよう (Attach your impressions of the appreciation work in the bottom section).

 There are also checkboxes for "自分の内面を写つめて、自画像を描こう" (Reflecting on my inner self and drawing a self-portrait) and "自分の表現したい色・感情から「模様」をもつと広げよう" (Expand from the colors and emotions I want to express to a "pattern").

使用したワークシート



生徒作品



生徒作品

授業名 「3Dプリンターの活用を考えよう」

学校名 練馬区立光が丘第三中学校

授業者氏名 伊澤 桂一

・指導要領の項目	A表現 (3) ア
・時間	4 時間
・対象学年	2 学年

●基調提案との関連

新しいものづくりの技術に触れることを通して、「授業への活用」についての可能性を模索することを目的とする。そのことで、外部機関とのつながりと、連携の中から新しい授業の創造、美術おける「表現」のひろがり期待できると考える。

●関連する今までの授業内容

前回の題材は、自分の選んだモチーフを粘土でそっくりに仕上げる立体作品の制作であった。それに對し今回の題材は、自分でイメージしたものをパソコンの画面上で具体的な形に仕上げ、3Dプリンターという機械に作らせるといった内容である。両方の良さを意識しながら題材に取り組ませる。

●研究の目的

- ・学校外部（パソコンソフト制作企業）とのつながりを通して授業の可能性を探る。
- ・生徒に社会との関わり、自分たちの社会の中での役割を学ばせる授業を考える。
- ・3Dプリンターという新しい技術に触れ、生徒自身にその活用を考えさせる。さらにそれを企業にフィードバックすることで連携・協力を深め、また新たな教育的価値を見いだす。

●指導の工夫

今現在3Dプリンターは、技術的側面においてその価値が見いだされ活用されている。そこで今回は、美術の表現の分野においてその活用を考えさせることに教育的な価値があるのではないかと考えた。

まず自分の手で作品を作るのではなく、機械で作ることの利点を考えさせた。次に実際に機械に触れてその特性を実感させ、その時の操作感覚を頼りに制作が進むように取り組ませた。

最終的に題材全体を振り返り、完成作品を鑑賞しながら新しい技術の活用について考えるよう指導を行った。

●準備物

【教師】宿題用ワークシート・アイデア作成用ワークシート

【講師】3Dプリンター・3Dプリンターで出力した参考作品

【生徒】筆記用具

●学習の流れ

導入 1時間	<ul style="list-style-type: none">・ワークシートを用い、手で作ることの良さと機械で作ることの利点・可能性を考える。・スケッチをしながら、作品の構想を考え始める。
展開 2時間	<ul style="list-style-type: none">・企業から3Dプリンターに関する説明、ソフトの使い方の説明を聞く。・実際にソフトを体験し、その操作感覚をもとに作品の構想を練る。・企業から技術指導を受けながら、作品を制作する。・3Dプリンターの活用を考えながら、制作を進める。
まとめ と評価 1時間	<ul style="list-style-type: none">・3Dプリンターで出力された完成作品を鑑賞する。・今回の題材のまとめを聞く。・3Dプリンターの活用、表現の可能性について意見交換をする。・意見交換の結果を企業に伝える。

●指導のポイント

- ・3Dプリンターの社会一般現在の活用について理解させる。
- ・今回の題材の重点は3Dプリンターの活用を考えることであることを理解させる。

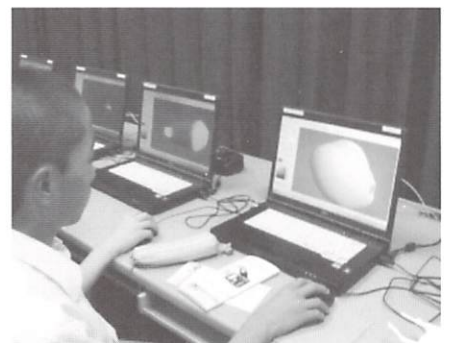
●考察

パソコン上でソフトを操作することに強い関心をもち、その特性を捉え可能性を考えるということに取り組めた生徒が少なかった。題材全体の時間数が少なかったということも考えられるが、導入部、またはそれ以前の学習において多様な美術表現を鑑賞するなど、系統的な学習ができる指導計画が必要であった。

●発展と広がり

今回の題材を通し、自分の手で直接材料に触れ制作することの良さや意味を再認識する生徒も多くいた。幅広い美術の経験が、結果的に生徒の関心・意欲を高めたと考えられる。

企業との連携においても、生徒に広い視野をもたせることのできる授業であり、可能性を感じることができる良い機会となった。



授業名 **屏風に名画を描く**

学校名 練馬区立大泉第二中学校

授業者氏名 高村 輝美

- | | | | |
|----------|-----------|--------|------|
| ・指導要領の項目 | A表現(1)(3) | B鑑賞(1) | 共通事項 |
| ・時間 | 10時間 | | |
| ・対象学年 | 3学年 | | |

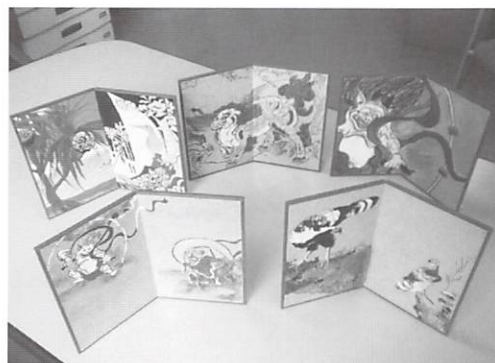
●**基調提案との関連**

今回の「屏風に名画を描く」という課題は、美術の授業で学習したものと他教科で学習したものを横断的に取り混ぜる、総まとめの制作課題として設定した。

これまでに美術の授業で学習してきた名画や日常目にしてきた名画の中から、屏風に描いてみたいと感動を受けた絵画を挙げさせ、その作者の生きた時代や作者の生涯等を調べさせることによって、“作者”とつながりをもつことが期待できる。

また、このような表現はどのように描いたら良いかを考えさせることによって、調べたり、既習の技巧を工夫したり、時には教え合ったりと、主体的な探究心のひろがり期待できる。

さらに完成した作品を発表し合い、そこからお互いに学び合うことによって、日本の伝統様式の利点や美しさに気づかせることができる。そしてその“気づき”によって実生活の中で自作品を飾って楽しむ感性が育まれ、そこから美術を愛好し、日常生活を豊かにしていこうという心が育ち、日本文化を受け継ぐこと、すなわち翔くことになると考える。

●**関連する今までの授業内容**

- ・美術史の鑑賞学習（1年次～3年次）
- ・夏休み期間中の美術館訪問と鑑賞レポート（1年次～3年次）
- ・色彩や色の感情、配色の学習（1年次）
- ・日本の伝統文化についての学習（3年次の修学旅行事前学習）

●**研究の目的**

鑑賞というと映像や美術の絵画資料等を見て「きれいだ」「美しい」「すごいなあ」という表面的な捉えで済ませがちであった。これではその作品の表現の特色や作者の心情までなかなか深まりにくいと考え、鑑賞と表現の2つの活動をともに体験できるように「名画の模写」を課題に取り上げた。

●**指導の工夫**

- ・そっくり写すということだけを重視するのではなく、作者が何を描きたかったのかを、色や形で追体験させることによって、主体的な鑑賞を実現した。
- ・東洋や西洋の今まで学んできた絵画全般を含めて、自分が模写したい名画を選ぶときに屏風の様式に適した作品(作品の表現方法が抽象表現ではなく、具象あるいは半具象の作品)から選ぶように促した。
- ・今まで使ってきた画用紙やケント紙とは異なる和紙で出来た金屏風を渡し、その手触り、大きさ等を確かめさせ、それに合った構図を考えさせた。

●**準備物**

〔教師〕金屏風(24cm×26cm)、屏風と同じ大きさの下書き用の紙、トレーシングペーパー、名画作品集、ワークシート(タイトル『私の選んだ名画』)

〔生徒〕教科書、資料集、筆記用具、定規、名画の資料

●学習の流れ（全10時間）

<p>導入 鑑賞 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化、暮らしの中で使われてきた屏風について、鑑賞し、機能性や美しさ、用途について話し合ったり感じとったりする。 (発想や構想の能力【言語活動】、鑑賞の能力、共通事項) 今まで鑑賞してきた名画、または名画作品集などに載っている東洋に限らず西洋も含めた作品の中から、屏風の様式や機能性、用途を考慮し、実生活の中でも飾ってみたい、あるいは、描いてみたい作品を見つけ、事前にワークシートにまとめる。 (発想や構想の能力【言語活動】、鑑賞の能力、共通事項) <p>※ 参考作品などを提示し、作品のイメージを膨らませる。</p>
<p>展開 発想・構想 (2時間)</p> <p>制作 (6時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 名画の中で、自分が描きたい部分や全体の構図や大きさを屏風の大きさに合わせて構図を決定した後に転写する。 (発想や構想の能力、共通事項) 名画を参考にして作者の心情を考えながら工夫して着色をする。(創造的な技能) <p>※ 絵の具（ポスターカラー、水彩絵の具）、色鉛筆、オイルパステル、墨などそれぞれの教材用具の特性を生かして作品の色と形を追体験していく。</p>
<p>まとめと評価 発表・振り返り (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 完成作品の相互鑑賞を行う。 (鑑賞の能力、共通事項) ワークシートをクラスで発表する。 (発想や構想の能力【言語活動】、鑑賞の能力、共通事項)

●指導のポイント

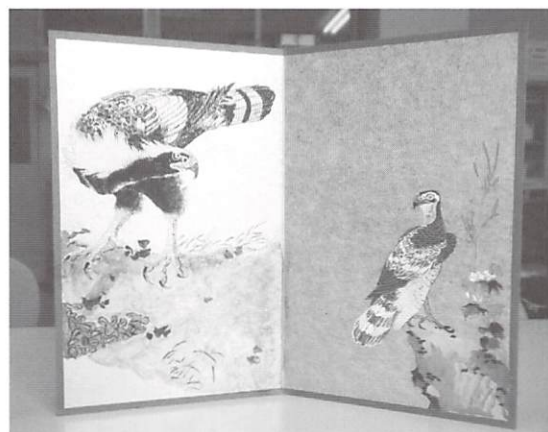
- 導入の場面において、事前に制作した作品を参考に示すことが大切である。直ちに屏風に触れ、間近に見て制作意欲が湧いてくるようにする。
- 結果的にそっくり写すということだけでなく、作者が何を描きたかったのかを深く掘り下げながらその心情に迫られるような言葉がけをする。
- 形や線の美しさ、微妙な深みのある色は何段階も色を塗り重ねて、最後に作品の色に近づいていくことを発見し、その色に近づける喜びを体験できるように指導する。

●考察

この題材は、今まで漠然と“美しい色だな”など見ていた色が、模写によって、その色に到達するまでの工夫と試行錯誤を追体験することができる。このことは生徒の興味を引き出し、主体的な鑑賞能力を向上させ、「A表現」の要求に応えられると考える。

●発展と拡がり

名画を紙に描くのではなく屏風に描くということで、まず日本の美術文化の継承と創造への関心を高めるとともに、名画を模写することによって作品の良さや美しさを主体的に味わう活動につながっていくと考えられる。また日本の屏風に西洋の絵画を描くことも可能であること、それは異なる国や文化の表現を日本の様式美に合わせることで、東洋と西洋の文化の良さがお互いに融合し、また新たな美しい作品になっていく喜びを味わえる。さらに日常生活の中で自分の作品を部屋に飾って、雰囲気や用途に応じて演出できるような今回の教材は、生涯を通じて作品を大切に、愛好していく、豊かな情操を育てていくことにつながっていくのだと思う。



あとがき

第32回東京都中学校美術教育研究大会副実行委員長

練馬区立豊玉中学校副校長 江川 誠 志



第32回東京都中学校美術教育研究大会を、本年度は第3ブロック（中野区・杉並区・練馬区）で開催させていただくことになりました。日頃の美術教育の成果を発表させていただくとともに、多数のご来賓の方々ならびに、多くの先生方からご指導をいただく機会を得ましたことは、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

さて、社会が急激に変化する中、教育も時代の変化に即した対応が求められており、主体的・協働的に授業を展開できる力、各教科横断的な視野で指導できる力、異校種間の円滑な移行を実現する力など、新たな時代にふさわしい教員の資質や能力が求められています。まさに本大会のテーマである「つながり、ひろがり、翔く」～感じることと表すこと～が、これからの美術教育の方途を探る最も重要な手がかりだと感じています。

具体的には、地域のイベントの中での作品展示の協力や、ICT機器など企業の新しい技術を取り入れた作品づくり、美術館とのコラボレーション企画など、地域社会とのつながりを意識した実践が更に進むと思います。誌上発表の中では、「3Dプリンターの活用を考えよう」という提案をさせていただきました。また各区で、学びの連続性を踏まえたカリキュラムの作成や異校種間の交流など、その取り組みが一層ひろがってきています。一例として、特別支援学級との交流授業「私の形を表現しよう」を通してひろがりを模索しました。近年、日本の伝統や文化が、世界から高い評価を得ています。悠久の時を越えて残ってきた文化財から本物がもつ力や美しさを感じ取り、未来に向かっての新たな創造の糧となるように、よき伝統や美術文化を一人一人の手で継承していくこともとても大切なことです。「屏風に名画を描く」の授業では、互いの作品を発表し合い、日本の伝統様式の利点や美しさに気づかせるための学びの場としました。

これらを通して、美しいものに出会った時に美しいと感じ、美術の楽しさや豊かな情操を育てていくことこそ我々美術科に託された大きな使命だと考えています。今回の大会では、その一部が果たせたのではないかと思います。

最後になりましたが、本研究大会についてご高配を賜りました中野区、杉並区、練馬区の各教育委員会及び各区校長会に感謝するとともに、各校、各関係機関等、多くの方々のご尽力とご協力に対し心より感謝申し上げます。この大会の後も、3区的美術科教員が互いに絆を深めながら、未来に向かって力強く翔く生徒を育てられることを祈念してあとがきとします。

大会運営組織一覧

係名	氏名	学校名
総務		
大会会長	殿村 靖 廣	葛飾区立大道中学校長
都中美事務局長	伊藤 範 彦	墨田区立墨田中学校
大会実行委員長	池田 浩 二	中野区立第二中学校長
大会副実行委員長	牧井 直 文	中野区立緑野中学校長
〃	大野 正 人	杉並区立井草中学校長
〃	堀井 安 伸	練馬区立石神井東中学校長
〃	江川 誠 志	練馬区立豊玉中学校副校長
〃	松本 久	練馬区立石神井中学校副校長
〃	黒田 一 三	練馬区立関中学校副校長
事務局		
局長	内田 善 人	中野区立南中野中学校
次長	落合 完 太	練馬区立田柄中学校
〃	川口 淳 一	杉並区立和泉中学校
会計	矢作 靖 子	中野区立第二中学校
局員	吉田 諭 司	中野区立緑野中学校
〃	朝倉 弘 行	練馬区立光が丘第一中学校
〃	田口 歩 未	杉並区立高円寺中学校
研究局		
局長	大出 和 広	杉並区立天沼中学校
次長	福島 淳 子	中野区立北中野中学校
〃	三浦 秀 樹	練馬区立大泉中学校
局員	福田 龍 郎	杉並区立中瀬中学校
〃	猪口 正 和	杉並区立井草中学校
〃	鈴木 ひとみ	杉並区立東田中学校
〃	宮越 一 昭	杉並区立東原中学校
〃	シュティーベリング育子	杉並区立杉森中学校
〃	中谷 桜 子	杉並区立高井戸中学校
〃	廣田 道 代	杉並区立大宮中学校
〃	中坪 崇 俊	練馬区立石神井中学校
〃	中三川 舞	練馬区立上石神井中学校
〃	井澤 桂 一	練馬区立光が丘第三中学校
〃	畝村 明 男	練馬区立開進第一中学校
〃	杉山 充	練馬区立開進第二中学校
〃	藤田 佳 子	練馬区立大泉西中学校
〃	久保田 李 夏	練馬区立八坂中学校
〃	高村 輝 美	練馬区立大泉第二中学校
〃	高野 朱 未	練馬区立開進第三中学校
〃	須賀田 美佐子	練馬区立練馬中学校
〃	花里 裕 子	中野区立第五中学校

係名	氏名	学校名
編集局		
局長	前田 康 夫	練馬区立光が丘第四中学校
次長	川見 晶 子	中野区立第三中学校
〃	濱谷 悟	杉並区立中瀬中学校
局員	野田 裕 子	練馬区立光が丘第三中学校
〃	豊崎 恵 美	練馬区立中村中学校
〃	中山 貴 子	練馬区立谷原中学校
〃	大野 心み江	練馬区立大泉学園桜中学校
〃	岡田 恭 子	練馬区立北町中学校
〃	梶沢 尚 司	練馬区立大泉学園中学校
〃	森澤 桃 子	練馬区立旭丘中学校
〃	志村 美智子	練馬区立石神井西中学校
〃	岡崎 純 子	練馬区立大泉北中学校
〃	渋谷 里 見	杉並区立神明中学校
庶務局		
局長	松尾 美 恵	中野区立中野中学校
次長	田原 英 樹	杉並区立荻窪中学校
〃	小山田 裕 子	練馬区立八坂中学校
局員	坂井 均	中野区立第十中学校
〃	松村 健 太	杉並区立井荻中学校
〃	森本 未 悠	杉並区立阿佐ヶ谷中学校
〃	山中 潤 子	杉並区立西宮中学校
〃	千賀 美 香	杉並区立和田中学校
〃	関 隆 志	練馬区立三原台中学校
〃	大塚 基 純	練馬区立練馬東中学校
〃	長尾 多加史	練馬区立関中学校
〃	徳原 正 枝	練馬区立豊玉中学校
〃	小林 郁	練馬区立豊玉第二中学校
〃	吉村 康 二	練馬区立開進第四中学校
〃	小林 佳代子	練馬区立貫井中学校
〃	尾尻 あやか	練馬区立豊溪中学校
〃	関口 麻 子	練馬区立大泉中学校
〃	大島 貴 子	練馬区立石神井東中学校

研究大会開催地一覧

開催日・開催地（会場）	大会主題（大会副主題）
第1回 S58.11.18 品川区 品川総合教育会館	「感動を持って創り出す力を高める美術教育」
第2回 S59.11.20 府中市 府中市立教育センター	「未来を拓く人づくりをめざす美術教育」
第3回 S60.11.27～28 豊島区関プロ大会と合同大会 豊島区立千川中学校	「素材と創造者たち」
第4回 S61.10.9 中野区 中野区立第七中学校	「創作意欲をおこさせ表現力をたかめる授業の進め方」
第5回 S62.10.9 立川市 立川市立第九中学校	「崩壊か、低迷か、創造か」
第6回 S63.11.25 新宿区(都図研・都中美合同大会) 新宿区立西戸山中学校・同早稲田小学校	「想像の大地をめざして」 －伸びる・ふれあう・美術の根－
第7回 H元.10.20 北区 北区立神谷中学校	「やる気見つけた！」 －みずからの生き方につながる造形活動をめざして－
第8回 H 2.11.22 新宿区 神楽坂工ミール	「感動が人を創る」 －自らをたがやす生徒の育成をめざす美術教育－
第9回 H 3.10.22 第5ブロック 荒川大会 荒川区立南千十第二中学校	「創るよろこび、生きるよろこび」 －今なぜ美術教育か－
第10回 H 4.10.20 第6ブロック 江戸川大会 江戸川区立小松川第二中学校	「感性が輝くとき」 －今、創造の意味を考える－
第11回 H 5.11.18 第7ブロック 八王子大会 八王子市立浅川中学校	「主体的表現と個性のかがやきをもとめて」 －心の教育と21世紀へ向けての美術教育－
第12回 H 6.10.4 本部大会 東京国立近代美術館・神楽坂工ミール	「新たな美術教育の展開を求めて」 －美術館との連携と鑑賞教育の可能性－
第13回 H 7.11.14 第8・9・10ブロック 北多摩大会 武蔵野市立第六中学校	「きらめく感性 あふれる創造」 －子どもが伸びる授業づくりをめざして－
第14回 H 8.10.4 第1ブロック 大田区全造連・関プロ大会と合同大会 大田区民センター	「美術と環境－心の軌跡」
第15回 H10.1.22 第2ブロック 世田谷大会 世田谷美術館	「根幹と広がり」 －美術を好きになるには－立体表現を通して－
第16回 H11.1.28 第3ブロック 練馬大会 練馬区立豊玉第二中学校	「現在、美術は増殖する」 －学校から地域へ生涯へ－

開催日・開催地（会場）	大会主題（大会副主題）
第17回 H11.11.19 第11ブロック 西多摩大会 西多摩郡日の出町立大久野中学校	「地域から発想」 －自然・伝統・生活を見つめて－
第18回 H12.11.16 第4ブロック 板橋大会 板橋区立加賀中学校	「美術の時間は発見ワールド」 －21世紀の美術は感性を呼び覚ます－
第19回 H13.11.22 第5ブロック 足立大会 足立区立第十四中学校・西新井ギャラクシティー	「豊かな感性が21世紀を創る」 －人権・共生・環境教育の原点としての美術－
第20回 H14.11.21 第6ブロック 墨田大会 墨田区立墨田中学校	「美術・生命の泉」 －わき出す想像、広がる創造－
第21回 H15.11.28 第7ブロック 八王子全道連・関プロ大会と合同大会 八王子長房中学校	「創ることは生きること」 －人間・さらなる成長をめざして－
第22回 H16.11.5 第1ブロック 品川大会 品川区立富士見台中学校	「観る 鑑みる 未来る」 －転換期における美術教育－
第23回 H17.11.18 第2ブロック 新宿大会 新宿区立落合第二中学校	「創造は生徒を変える」
第24回 H18.11.17 第3ブロック 中野大会 中野区立中野富士見中学校	「みんなの美術」 －感動と創造は未来を拓く－
第25回 H19.11.8～9 第4ブロック 文京大会 (47回関東甲信越静地区造形教育研究大会東京大会)	人間形成としての造形美術教育 －新しい教育課程にどう対応するか－
第26回 H21.1.16 第8・9・10ブロック 北多摩大会(府中大会) 府中市立浅間中学校・府中市美術館	「人間力をはぐくむ美術教育～いま、求められる創造性」 －豊かな「かかわり」を生み出す美術の授業－
第27回 H21.11.13 第6ブロック 葛飾大会 葛飾区立上平井中学校	「メッセージ～色・形・ことばからの発信～」
第28回 H22.11.9 第5ブロック 荒川大会 荒川区立第三中学校	「イメージを形に」 ～鉛筆デッサンから自己表現まで～
第29回 H24.1.13 第7ブロック 町田大会 町田市立第二中学校・町田市立国際版画美術館	「自分らしさを創る美術教育」 ～生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力～
第30回 H24.11.16 第1ブロック 品川大会 品川区立富士見台中学校	「美術教育の今」 ～創造活動の資質・能力を考える～
第31回 H25.11.28～29 教育研究大会 (66回全国造形教育大会東京大会・第52回都図画工作研究大会城東大会)	造形美術教育のダイナミズム －成長と連携－
第32回 H26.11.28 第3ブロック 中野大会 中野区立第二中学校	『つながり、ひろがり、翔く』 ～感じることと表すこと～

memo



■交通案内

丸の内線 中野新橋駅 徒歩5分

●体育館へ直接行かれる方は、
学校を経由せず体育館入口を
ご利用ください。

中野区立第二中学校
東京都中野区本町5-25-1
TEL.03-3382-7151
FAX.03-3382-7152